

令和5年度岩手県子どもの生活実態アンケート調査報告書のポイント

- 調査の目的
子どもの貧困対策推進施策の検討を行うための参考データを収集することを目的とする。
- 調査の概要

	計		小学5年生		中学2年生	
調査時期	令和5年12月15日～令和6年1月22日					
調査方法	無記名式全数調査(学校配付・WEB回答)					
調査対象者	小学5年生、中学2年生の児童生徒及びその保護者全て					
調査対象者数	計	37,228人	計	18,186人	計	19,042人
	保護者	18,614人	保護者	9,093人	保護者	9,521人
	児童生徒	18,614人	児童生徒	9,093人	児童生徒	9,521人
回答数 (回答率)	計	14,057人 (37.80%)	計	7,277人 (40.00%)	計	6,780人 (35.60%)
	保護者	3,395人 (18.20%)	保護者	1,913人 (21.00%)	保護者	1,482人 (15.60%)
	児童生徒	10,662人 (57.30%)	児童生徒	5,364人 (59.00%)	児童生徒	5,298人 (55.60%)

- 子どもの幸福感について、自分は「とても幸せだと思う」と回答した割合は、前回調査と比較して、小学5年生が2.2ポイント、中学2年生が5.1ポイントと、ともに増加している。
- 子どもの学習の理解度について、学校の授業が「全部わかる」と回答した割合は、前回調査と比較して、小学5年生が4.0ポイント、中学2年生が2.9ポイントと、ともに増加している。
- 子どもの朝食の摂取状況について、朝食を「毎日食べる」と回答した割合は、前回調査と比較して、小学5年生が1.6ポイント、中学2年生が3.0ポイントと、ともに減少している。
- ひとり親家庭の就労状況について、「フルタイム(正規職員)」と回答した割合は、前回調査と比較して、母子世帯(母及び18歳未満の子のみ)が7.0ポイント、母子世帯(母及び18歳以上の親族等同居)が8.1ポイントと、ともに増加している。
- 経済的な理由(お金が足りなくて)で、電気・ガス・水道が止められた、医療機関を受診することができなかったなどの経験の有無について、「どれにもあてはまらない」と回答した割合は、母子世帯(母及び18歳未満の子のみ)が13.0ポイント、母子世帯(母及び18歳以上の親族等同居)が16.1ポイントと、ともに大きく増加している。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大前(2020年2月以前)と調査時点(2023年12月頃)との児童生徒の生活の変化について、小学5年生、中学2年生ともに、特に「夜遅くまで起きている回数」、「親以外の大人や友達と話しをすること」、「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」が「増えた」と回答した割合が高くなっている。
- また、新型コロナウイルス感染症の拡大前(2020年2月以前)と調査時点(2023年12月頃)との保護者の生活の変化について、「生活に必要な支出の変化」と回答した割合が7割を超え最も高く、次いで「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」と回答した割合が高くなっている。

※ 前回調査:平成30年度